令和4年度　大田区立大森第一中学校　自己評価　報告書

令和5年3月3日

○　本校の概要

◆教育目標　「共感・納得・理解できる指導」を基盤として、生徒・保護者や地域の信託に応える教育活動を推進し、公教育の使命を果たすため、以下の目標を掲げる。
・きまりを守り、責任を果たす人になろう　・自ら進んでよく学びよく働く人になろう　・心身ともに健康で情操豊かな人になろう　・互いに尊重しあい思いやりのある人になろう
◆生徒数　全校生徒226名（1年：79名、2年77名、3年70名）　◆教員数　17名
◆学級数　7学級（1年：3学級、2年：2学級、3年：2学級）
◆特色ある教育活動　全校道徳、カサゴ稚魚放流、池上自動車学校と連携した自転車安全教室、ツーウェイコミュニケーション、学習新聞作り、ボランティア活動

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4	○生徒・保護者へのアンケートの回答 ・学校は、「生きる力」を育むために進路指導として、1年「職業調べ」、2年「職場体験・上級学校調べ」、3年「面接指導」を行っています。これらの活動は生徒に役立っている。 ・生徒会活動や委員会活動は充実している。 ・学校行事は楽しく充実している。	4：80%以上 3：60%以上 2：60%未満 1：40%未満	4	1. 引き続き、外国語教育指導員を活用しながら、引き続きオールイングリッシュの授業進行により、英語によるコミュニケーション能力の育成に取り組んでいく。 2. 校内展示会や区のものづくりフォーラムに向けた美術・技術・家庭での作品作りや理系教科の授業を通して、体験活動や論理的思考力の育成を図る。 3. 小中連携の機会などを通じてICT機器の活用方法を広げ、学習用タブレットを活用し生徒の学ぶ意欲を高める授業を実践していく。 4. 道徳授業地区公開講座を実施して、身近な出来事に結びついた人権問題について、保護者とともに考える機会を作る。 5. 小学校と連携した「体力向上全体計画」にもとづき、授業開始時のランニングなどの補強運動を継続し、基礎体力の向上を図っていく。	A	5	・今後、ますます、授業におけるICT活用の必要性は高まり、加速していくことと思います。ぜひ、授業でのデジタル活用を推進されますことを期待いたします。 ・すべての項目に共通して言えることですが、保護者のアンケート回収率の低さが気になります。家庭でのコミュニケーション不足もあるのかと心配になります。 ・これからますます外国語は必須になると思います。聞く、話すことに力を入れてほしいです。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4					B	3	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3：80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2：60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1：60%未満であった。	2					C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	3					D	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	1	○生徒・保護者へのアンケートの回答 ・教員の授業は分かりやすい。 ・少人数習熟度別授業は、成果をあげている。（数学・英語）	4：80%以上 3：60%以上 2：60%未満 1：40%未満	3	1. 生徒一人ひとりの学習のつまずきや学習方法を指導するために、学習カルテを面談の機会などに効果的に活用していく。 2. 分からないところを確認し効率的に学習を進めるため、ステップ学習チェックシートを活用していく。 3. 英語と数学で「平日の火・木の放課後」「年間6回の土曜日」「夏季休業中の5日間」をおこなっている。また、「月曜放課後」に勉強会の補習を実施した。今年度より、講師を増員している。 4.「小中一貫教育の会」を機会に、大田区学習効果測定の分析結果について小学校と共有し、各校で作成した授業改善推進プランを生かし授業をおこなっている。	A	4	・学力の向上について肯定的な回答が少ないようですが、先生方は様々な準備、工夫をして授業に臨んでいらっしゃることがうかがえます。家庭と連携をとりながら、学ぶ楽しさ大切さを伝えていただきたいです。 ・学習カルテはとてもよい取り組みだと思います。不得手なところを重点的にくり返し学習できるので。 ・評価の低い項目について問題がどこに有るのか調査する必要が有るが、教員の労働時間内で行えるか検討を要す。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	2					B	4	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。	4					C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4					D	0	
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4	○生徒・保護者へのアンケートの回答 ・学校は、学級指導・生徒指導・道徳指導を通して、以下の事項を柱にして指導を行っています。それらは、達成されていると思いますか。 ・あいさつ、返事　・あつまり　・あとしまつ ・学校は、いじめや暴力のない学校づくりに積極的に取り組んでいる。 ・教員は、生徒を理解して相談事や悩みについて親身に対応している。	4：80%以上 3：60%以上 2：60%未満 1：40%未満	4	1. 引き続き、小学校で身に付いた「きまり」を生かしながら、中学生としての自覚を持たせ、学校生活におけるルールや決まりの重要性を理解させ、守ろうとする意識を高めていく。 2. 道徳授業地区公開講座を実施して、身近な出来事に結びついた人権課題について、保護者とともに考える機会を作る。 3. 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果を分析し、対応が必要な生徒をスクールカウンセラーにつなげるなど、組織的な対応を行っていく。 4. 教員は休み時間も生徒に寄り添い、声かけや行動観察を行っている。各種アンケート調査や相談週間を活用し、いじめの未然防止と早期発見に努めていく。 5. 不登校については、学校への登校だけにこだわらず、外部機関と連携して生徒の学習機会を確保するなど、多様な対応を考えていく。	A	5	・学校訪問すると、いつも生徒さんから元気なあいさつをいただきます。大変気持ちの良い学校です。 ・学校からもう少し詳しい報告が聞けずに終わってしまいました。 ・様々な取り組みを通して、生徒一人一人を育成するという姿勢が教職員に共有されており、それが実践につながった、すばらしい結果だと思います。 ・なかなか学校に行く機会がありませんでしたが、音楽祭では生徒たちがのびのびと楽しんでいる様子に、先生との信頼関係も築けていると感じました。以前よりも元気なあいさつが減ったように思います。自然と元気なあいさつが出るような学校であってほしいです。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					B	3	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4					C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4					D	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	2	○生徒・保護者へのアンケートの回答 ・大森一中生は、年度当初より生活面で向上している。 ・部活動は充実した活動になっている。	4：80%以上 3：60%以上 2：60%未満 1：40%未満	4	1.「早寝・早起き・朝ごはん」月間の資料配付や朝礼、学活での講話をとおして、不規則な生活リズムを修正し学校生活を健全に過ごせるよう啓発する。 2. 季節メニューや食材産地に関する情報提供とあわせて、栄養に関する知識などを給食だよりで紹介しながら、バランス良く食べることの大切さを伝えていく。 3. 小学校と連携した「体力向上全体計画」にもとづき、授業開始時のランニングなどの補強運動を継続し、基礎体力の向上を図っていく。	A	6	・家庭での過ごし方、躾という意味など、保護者との関係も大きいと思われます。ITの時代となり、より体力の低下も心配されますね。 ・コロナ禍における活動の制約、家庭の協力が必要な項目（プラン）のため、生徒への指導に苦慮されたことがよく分かります。 ・年を重ねるごとに睡眠、食、運動の大切さが身にしみます。ぜひ今のうちから意識を高く持ち、健康でいてほしいと思います。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4					B	2	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	2					C	0	
									D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3	○生徒・保護者へのアンケートの回答 ・本校に入学してよかった。 ・教員は、「分かりやすい授業」を行うために学習指導方法を工夫・改善している。	4：80%以上 3：60%以上 2：60%未満 1：40%未満	4	1. 引き続き、授業公開日のアンケートはすぐに集約し、ご意見はまとめて全教員にフィードバックすることで、授業改善につなげていく。 2. 授業改善セミナーの研修結果を生かし、日常の授業において主任教諭がOJTを実施する中で指導・助言を行っていく。 3. 区内小中学校の研究発表会に必ず参加し、その成果を共有することで、異なる校種や教科の研究成果を、教員の授業改善に生かしていく。 4. 特別支援教育について、教職員の理解と支援する力の向上を目指す。また、生徒や保護者にその目的や意義を浸透させるための取り組みを推進する。	A	6	・教員の指導力、授業力の向上を、さらに推進していかれますことを期待させていただきます。 ・「分かりやすい」授業については保護者の意見も大変参考になるかと思います。今後も授業公開日のアンケート集約、結果周知を続けていただきたいです。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					B	2	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4					C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	2					D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	3	○生徒・保護者へのアンケートの回答 ・学校は、生徒や保護者に学級や学校の様子を便りや保護者会・面談などで積極的に知らせている。 ・学校は地域の力（保護者以外）を生徒の教育活動に活かしている。	4：80%以上 3：60%以上 2：60%未満 1：40%未満	4	1. ホームページで学校経営方針などの基本情報や学校だよりを発信し、緊急の事案は、学校緊急連絡システムによるメール配信をおこなっている。 2. 地域教育連絡協議会では、授業や特別活動、行事の参観を通して、生徒の学校生活の様子をご覧いただいた。 3. 遊漁船組合の協力によるカサゴの稚魚放流や、地域の企業・店舗の協力による職場体験など、地域の協力による体験活動を実施することができた。	A	6	・地連協や学校だよりを通じて学校の様子がよく分かります。また、学校長をはじめ先生方やPTAの皆様が地域に協力的で、地域行事や防災訓練等、生徒さんも含めて参加・お手伝いいただくなど助けていただいています。次代を担う生徒さんやその保護者と一緒に活動できることは、地域の担い手が高齢化する中、大きな強みとなっています。 ・学校評価アンケートから、保護者は学校行事以外の教育活動について、あまり把握されていないことが読み取れます。ホームページに、授業の様子や生徒の成果物等を掲載し、発信することも、保護者の理解を得る一つの方法かと思います。 ・地域での体験活動も徐々に復活してきているようでよかったです。ホームページを見る保護者も増えており、さらなるホームページでの情報発信に期待しております。 ・職場体験は、働いている方の様子や思いを知ることもでき、将来自分の進むべき道を示してくれると思います。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	3					B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					C	0	
									D	0	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。